

# meiji 駿台倶楽部会報

明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部  
会長 吉川 芳登  
府中市若松町5-6-1  
明治大学野球部合宿所内  
電話番号 (042) 313-4134  
FAX番号 (042) 364-5605

## 秋季L4勝2敗4分け 無念の3位終戦

# 村松主将でV奪回

### 明治大学野球部 優勝記録

東京五大学野球リーグ戦優勝	8回 昭和15年秋季	20回 昭和55年春季	32回 平成20年春季	全日本大学野球選手権大会	明治神宮野球大会大学の部
	9回 昭和17年春季	21回 昭和56年春季	33回 平成21年秋季	1回 昭和29年優勝	1回 昭和50年優勝
1回 大正12年秋季	10回 昭和28年秋季	22回 昭和58年春季	34回 平成23年秋季	2回 昭和30年優勝	2回 昭和51年優勝
東京六大学野球リーグ戦優勝	11回 昭和29年春季	23回 昭和59年秋季	35回 平成25年春季	3回 昭和53年優勝	3回 平成7年優勝
	12回 昭和30年春季	24回 昭和61年秋季	36回 平成25年秋季	4回 昭和55年優勝	4回 平成8年優勝
1回 昭和2年秋季	13回 昭和36年春季	25回 昭和62年春季	37回 平成26年秋季	5回 昭和56年優勝	5回 平成23年優勝
2回 昭和3年春季	14回 昭和44年春季	26回 昭和63年秋季	38回 平成28年春季	6回 令和元年優勝	6回 平成28年優勝
3回 昭和11年春季	15回 昭和48年秋季	27回 昭和64年春季	39回 平成28年秋季		
4回 昭和12年春季	16回 昭和50年春季	28回 昭和65年秋季	40回 令和元年春季		
5回 昭和13年秋季	17回 昭和50年秋季	29回 昭和66年春季			
	18回 昭和51年春季	30回 昭和67年春季			
	19回 昭和52年秋季	31回 昭和68年秋季			

今季の幹部たち。(左から)鈴木主務、葦尾副将、村松主将、山田陸副将



## 高森啓介氏に代わり津賀正晶氏が先輩理事

今季は主将に村松開人内野手(静岡)、副将には葦尾、山田陸人内野手(桐光学園)の3人が就任、チームの先頭に立つ。また26年間、先輩理事を務め野球部を支えてくれた高森啓介氏に代わり津賀正晶氏が先輩理事を引き継ぐことになった。

### 葦尾、山田が副将

明大は4勝2敗4分の勝利ポイント(P)6の3位に終わった。早大に連敗したのが痛く優勝した慶大に0・5P足りなかった。その中でベストナインには葦尾海斗捕手(3年II日南学園)宗山塁遊撃手(1年II広陵)外野手の丸山和郁主将(前橋育英)の3人が選ばれた。ドラフト会議では丸山がヤクルトから2位指名を受けて入団。神宮球場を舞台に新たな道を進むことになった。

令和3年秋季リーグ戦は10試合、延長なしの特別ルールの中、9月18日に開幕。コロナによるクラスターが発生した法大を配慮し予定より一週間遅らせ火曜、水曜日も使いながら7週で行う異例の開催だった。

### 痛恨…早大に連敗

## 秋季Lは丸山、葦尾、宗山3人がベストナイン

# KKRがV導く

村松カイト 裏尾カイト 山田リクト



19年春の優勝へ「全員野球」のチームを作り上げることを誓った村松新主将

## 村松主将19年春以来の歓喜へ「全員野球のできるチーム作る」

今季はカイト、カイト、リクトの3人でチームを牽引する。令和4年の新体制が決まり主将には村松開人内野手、副主将には裏尾海斗捕手、山田陸人内野手の3人が先頭に立ってV奪回を目指すことになった。村松主将は「全員で勝つ」と力強く宣言した。

「主将になるのは僕が山田だ」と心の準備はできていた。村松は「主将になるのは僕か山田だと思ってましたから」と田中武宏監督から指名を受け、大きく頷いた。昨年度のリーグ戦はベ...

大学日本代表候補に内野の要・遊撃手として広い守備範囲と確実な送球。打者としては6番を任せられ打率・378をマーク。春の途中からレギュラーを獲得した。宗山は、秋には成長した成績を残し

打席での技術と修正。宗山の良さは打席で修正できること。慶大2回戦でのこと。左腕・増原に対して1打席目をカーブで打ち取られると、2打席目ではその球を見事に右前に打ち返した。「常に相手投手の決め球を頭に入れないから打席に立っている」と、際どいボールはファウルで逃げる技術も身につけてきた。そして宗山を成長させたのはライバル校の投手たち。早大では徳山(DeNA2位)・西垣(楽天6位)・法大では山下(ヤクルト1位)・三浦(DeNA4位)らといったプロに進む先輩たちと対戦できたことだ。「いい投手と対戦できたというのには自信にもなるし、いい経験をさせ

てもらった。山下さんのスライダーはまったく打てませんでした。」「秋はまず全試合に出れたというのが大きかった。ヒットの内容、守備ではエラーも多かった満足はしていません。もっと鍛えていかないと思っています」

打席での技術と修正。宗山の良さは打席で修正できること。慶大2回戦でのこと。左腕・増原に対して1打席目をカーブで打ち取られると、2打席目ではその球を見事に右前に打ち返した。「常に相手投手の決め球を頭に入れないから打席に立っている」と、際どいボールはファウルで逃げる技術も身につけてきた。そして宗山を成長させたのはライバル校の投手たち。早大では徳山(DeNA2位)・西垣(楽天6位)・法大では山下(ヤクルト1位)・三浦(DeNA4位)らといったプロに進む先輩たちと対戦できたことだ。「いい投手と対戦できたというのには自信にもなるし、いい経験をさせ



常に投手を励まし続けた村松

竹田の金言で打撃覚醒。19年春、40度目の優勝を決めた瞬間、マスクをかぶっていたのが当時1年生の裏尾だった。しかしその後の3シーズンはず埋もれた選手になってい

「とにかく試合に出た。それしかなかった。僕の場合、声とか守りでアピールするしかないと思ってやってきた」と昨秋の大活躍につなげた。8番ながらチームトップの打率・400を残し捕手部門で初のベストナイン。10試合中、無安打は立天2回戦のみとバット

投手村田・蒔田らが成長してきた。同期の投手たちがまだまだ。リーグ戦では1球に泣く

投手村田・蒔田らが成長してきた。同期の投手たちがまだまだ。リーグ戦では1球に泣く

の底上げを期待する。個人に関しては、もちろん最終目標はプロ入り。『まだチャンスで打ってないし、もっと上を目指さないと』丸山さん(前主将、ヤクルト)以上の選手にならないとプロの道は厳しい。首位打者やベストナインなどタイトルも獲りたい」と意欲をみせる。村松は自らのバットでチームの先頭に立つ。

山田 春秋日本で卒業へ。昨春の首位打者、秋も3割超え

○：昨春の首位打者、山田陸も副将として先頭に立つ。秋は打率3割・333はキープしたものの体勢を崩される場面

も見られた。「もっと確実性を高めたい。リーグ優勝、全日本、神宮大会も勝って卒業したい」と意識は高い。左打者の多い打線の中で貴重な右打者。山田にかかる期待は大きい。

(3)

# 宗山満塁でベストナイン 成長の1年目から進化の2年目



内野の要・遊撃手として広い守備範囲と確実な送球。打者としては6番を任せられ打率・378をマーク。

秋季リーグ戦で一番の成長を見たのが遊撃のレギュラーをつかんだ宗山だ。全10試合に出場し打率・378(5位)を記録。担当記者が選ぶベストナインに満塁で初選出された。今季は中心選手としてチームを引っ張るつもりだ。

大学日本代表候補に内野の要・遊撃手として広い守備範囲と確実な送球。打者としては6番を任せられ打率・378をマーク。春の途中からレギュラーを獲得した。宗山は、秋には成長した成績を残し

打席での技術と修正。宗山の良さは打席で修正できること。慶大2回戦でのこと。左腕・増原に対して1打席目をカーブで打ち取られると、2打席目ではその球を見事に右前に打ち返した。「常に相手投手の決め球を頭に入れないから打席に立っている」と、際どいボールはファウルで逃げる技術も身につけてきた。そして宗山を成長させたのはライバル校の投手たち。早大では徳山(DeNA2位)・西垣(楽天6位)・法大では山下(ヤクルト1位)・三浦(DeNA4位)らといったプロに進む先輩たちと対戦できたことだ。「いい投手と対戦できたというのには自信にもなるし、いい経験をさせ

先発の柱期待も 藤江5戦で1勝

○：竹田とともに先発の柱として期待された藤江(1年=大阪桐蔭)は1勝に終わった。5試合に登板、規定投球回数には達したが防御率は4・57。東大戦では5回無失点と好投し秋1勝を挙げたが、残り4試合で失点。苦しい内容だった。「最後の方は体力面のなさを痛感しました。ストロークも走り込んで体力強化を図ります」と2年目の大黒柱を目標に置いた。



藤江は計5試合に登板で防御率4・57と苦しんだ



法大1回戦で7回裏封の投球を見せた蒔田

野球部のスポーツ特別入試に14人が合格(別表)した。投手、野手ともレベルの高い選手が集まった。

◇明大野球部推薦合格者◇

位置	選手名	校名
投手	川須英	学院学
	高久大	徳大
	久野雅	徳大
	久野雅	徳大
捕手	小島大河	東海大
	木本圭	桐蔭学
	宮崎常	福和学
	吉田拓	福和学
内野手	今井英	東海大
	今井英	東海大
	今井英	東海大
	今井英	東海大
外野手	今井英	東海大
	今井英	東海大
	今井英	東海大
	今井英	東海大

※☆は甲子園、甲子園交流試合出場

(2)



# 島岡吉郎物語 ~明治中・高監督編~

**チーム強化実り甲子園に出場**  
 前回まで応援団長の島岡吉郎が明大野球部監督になるまでの連載。チームの強化が実り、ついに甲子園大会に出場までこぎつけた。



故嶋清一氏の野球殿堂入りに出席した古角氏(右から2人目)

**初出場 8強** 1948年(昭23)、それまでの中等野球大会から学制改革によって高等学校選手権大会となった。明治中も明治高となり、50年の第22回センバツ大会は4月1日から16校が参加して行われた。

1回戦の彦根(現彦根東)を6-0と完封。ベスト8に進出したが準々決勝で北野に5-7で敗れ涙を飲んだ。この時のエースは島岡自らスカウトした大崎三男(元阪神)一松田龍太郎(元明大監督)のバッテリー。甲子園初出場で1勝をもぎとった。この当時から「何とかせい!」と言っていたかわからないが、甲子園デビューは上々

だった。その年の夏も、都予選の決勝で早稲田実を大崎が4安打完封、7-0で破り春夏連続出場を勝ち取った。甲子園では2回戦(初戦)で北海に敗れたが、強豪校として明治の名前は刻まれた。

**3季連続!!!** 翌年のセンバツでは2勝してベスト4。沖山光利(元大洋)を4番に据え、初戦で呉三津田、準々決勝で宇都宮を破っての進撃だった。この大会に和歌山・新宮も出場。監督をしていたのが明大OBの古角俊郎だった。海草中(現向陽)時代、エース嶋清一(明大OB=野球殿堂入り)とともに39、40年の夏の甲子園を連覇した人。試合に備え、甲子園隣の

グラウンドで練習を終えると、次の試合に備えて登場したのが明治だった。ここで島岡が古角に対して「おお古角、いいところにいた。ノックしてくれ」と頼んだのだ。初めは固辞した古角も再三の要請に心え、新宮のユニホームを着た監督が明治の選手にノックする前代未聞なシーンが誕生した。

後年、古角は明大野球部史にその時の話を懐かしむように書いている。いいと思ったら他校のOBにも指導を仰ぐ島岡らしい話ではないか。野球素人の監督が快拳ともいえる3季連続の甲子園。この実績が大学の監督への布石となっていく。

—敬称略—

「六球会」に出場したOBたち



## 「六球会」法大に4-0快勝

東京六大学のOBで組織する「六球会」の野球大会が12月6日、神宮球場で行われた。年に1カード、5年で全校と対戦する方式。昨年はコロナ禍で中止となったため、2年ぶりの試合となった。

明大OB軍は法大OB軍と対戦。今回は昭和56~58年卒の「若手」が多数参加。最年長は同36年卒の田中昇で、吉川芳登駿台倶楽部会長(同37年卒)もユニホームに身を包み出場した。

試合は竹内圈(同43年卒)が3打点の活躍。大学、社会人(日産自動車)ともに全日本で活躍した堀添弘和(同56年卒)も3安打を放つなど存在感を示した。守っては登坂勤(同57年卒)一露崎正由(同44年卒)が完封リレー。守備もノーエラーで援護し4-0で快勝した。これで通算成績は2勝1敗。今年も早大、来年の最終戦は東大と対戦予定になっている。(敬称略)

「関西支部」3月6日から第8回「夢」兵庫県中学硬式野球親善大会(28チーム、4日間)を開催。優秀な成績を挙げたチームに竹内圈関西支部長(S43年卒)から記念品が贈られた。8月8日には夏の全国高校野球選手権大会に出場したノースアジア大(明大)の奥石重弘監督(58)の激励会が開催され、お祝い金が渡された。



甲子園出場の激励会で奥石監督(右)にお祝い金を渡す竹内関西支部長

◇92回都市対抗野球大会 11月28日から東京ドームで開催。数多くのOBが活躍。決勝では東京ガスが初優勝。入社2年目の北本一樹(21年シーズン)から川村勇斗氏が東京六大学野球の審判員としてデビューした。川村氏は広島に入団した森下と同期で現役時代は学生コーチとして活躍。大学日本一に貢献した。

野球部、野球界に貢献した人に贈る駿台倶楽部賞に以下の9人が決まった。

- ☆田中茂光氏(顧問、推薦会員) OBではないが永年にわたり野球部史の編さんに多大な貢献。
- ☆中原英孝氏 高校野球指導者として長野県高校野球の発展に尽力した。
- ☆森下暢仁投手(広島) 東京五輪の野球競技で金メダルを獲得。
- ☆井上崇通氏 前野球部長として12年間、野球部発展に尽力。
- ☆陶山勇軌外野手(4年) 春季リーグで首位打者を獲得。
- ☆山田陸人内野手(3年) 春季リーグで陶山とともに首位打者を獲得。
- ☆渡辺正健氏(Honda熊本監督) 都市対抗野球で準優勝に導いた。
- ☆柳裕也投手(中日) セ・リーグの防御率、最多奪三振のタイトルを獲得。ベストナインにも選出された。
- ☆島内宏明外野手(楽天) 初めて打点王のタイトルを獲得。

# 丸山ヤクルト2位

# プロでも 神宮で



チームを主将として引つ張った丸山和郁外野手が、プロの世界に飛び込む。10月11日に行われたドラフト会議でヤクルトから2位指名を受け、4年間戦った神宮球場で新たなスタートを切る。契約金7500万円、年俸は1200万円(金額は推定)背番号は「4」に決まった。

# 暴れまっせ〜

## 春秋率3割超え

島岡寮でドラフト会議を見守った丸山。指名されるのか不安な思いと緊張感の中、ヤクルトから2位指名という高い評価を受け、安堵と嬉しさが交じった笑顔を見せた。入学時から足と肩には定評があった。打撃も地道な努力で4年の春秋ともに打率3割を越え通算も.313。ベストナインも2度獲得しリーグを代表する外野手に成長した。明大OBでもあるヤクルト・榎淵聡編成部スカウトグループデスクは、走攻守で即戦力。2位で行かないと獲れない選手。ウチの青木(宣親)も40歳。後継者として期待しています」と話し、背番号「4」にチームの期待度の大きさがわかる。

## 結果求められる

入団するヤクルトはリーグ優勝を果たし、クライマックスも勝ち上がり日本シリーズに進出。パ・リーグ覇者のオリックスとの激

## 社会人野球へ11人

○：プロの世界に進む丸山のほか、社会人野球に11人が進む(7面の進路参照)。コロナ禍の中、一般企業への就職活動は大変だったが、



## 竹田無念の指名漏れ… 社会人から2年後目指す

○…エース背番号「11」を付け、明大のマウンドを守ってくれたのが竹田。丸山とともにプロ志望届けを提出したが叶わず、社会人野球に進む。4年間で11勝(5敗)は現役投手では最多。下級生にも惜しみなくアドバイスを送り出す竹田は「(指名漏れは)一生懸命やった結果なので仕方ない。2年後を目指して前を向いていきます」とすでに気持ちを切り替えた。試合のたびに大阪から両親が応援に駆けつけ、最後の登板もスタンドからしっかり見守っていた。

闘を4勝2敗で制し01年一年目から結果を求められ以来20年ぶりの日本一を思うんです」と気を引き締めた。入学時はコーチで、プロへは監督として送り出す田中武宏監督は「入学時はプロなんて考えられなかったけれど、本人の努力でここまでできてくれた。人間力の部分で一番成長した。」と語った。3年まではヤンチャな次男坊的な存在だったが、最後に主将になつた。大卒は即戦力だし成長してくれたね」と早く見たい。

本人の努力でここまでできてくれた。人間力の部分で一番成長した。

青木の後継期待「最後は23を付けたい」